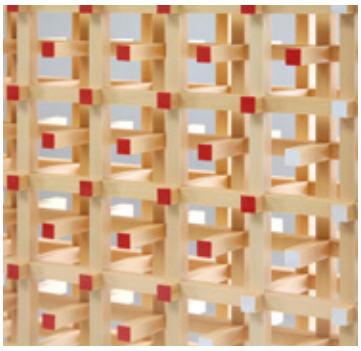
夢追い人

伝統の技を基に新たな表現を生み出す

前田建具製作所 前田 英治 さん



立体組子“絆”

今月の夢追い人は、前田建具製作所の二代目、前田英治さん。

前田建具製作所は、「新たなる木組み『立体組子』を活用した建具、家具インテリアの開発」の事業で、九州経済産業局から「地域産業資源活用計画」の認定を七月七日に受けたばかり。この認定によって、補助金への応募、低利融資、また専門家派遣等の各種支援策の活用ができるようになっている。

さて、この事業のメインとなる、「立体建具」とはどのようなものだろうか。

一言で言えば、組子の単位を立体積層する技法を使う建具のこと。（写真参照）「従来の組子が平面的であるのに対

し、高精度に切り出した木を立体的に組むことで三次元的な広がりを表現できます。」木工職人の伝統的な匠の技に加え、精密機械を駆使することで作りあげることができる。

従来の組子とは見え方が全く異なる。照明等の光の当たり方によって生じる陰影は、空間に奥行きや広がりを感じさせ、魅力ある雰囲気を演出する。そして「構造上の強度が増すため、室内装飾への利用が可能であり、デザインを多様化することで家具やインテリア商品など幅広い活用が見込まれます。そして量産が可能なので、「建具」と異なった販路拡大を目指すことができます。」

販路開拓に当たって、会社の「強み」となるのが商品。それに加えて、「商品を現場の状況に応じて臨機応変に適用できること。」前田さんは一級技能士・二級建築士の資格を持っているのだ。これまで、設計事務所とタイアップして建築物全体の製作に係わってきた。設計の段階から、「知恵袋」としてさまざまなアドバイスができる。「建物全体の調和の中で、配置する商品の材質やデザイン、製作方法、細かな調整、配置の仕方など……です。」だから、顧客一人一人の要望に応じて、商品を自由自在に調整し、配置できる。今後、こうした強みを活かしながら販路拡大に力を入れていく。

ところで、前田さんはなぜ「地域産業資源活用計画」の認定を目指したのだろうか。

「実は立体組子に関して、昨年の一月二十六日に『経営革新計画』の認定を受けています。周りに勧められ、大川信金のサポートを受けられたのです。そしてそれは進展していきました。『ものづくり補助金』の認定、意匠、商標登録、実用新案。そして今回の『地域産業資源活用計画』の認定……という風にです。」『経営革新計画』がすべての始まりでした。※

さて、前田さんは余暇をとても大切にする方だ。仕事は精一杯するが、自由時間を十分に満喫したいという。パウダースキー、魚釣り、ダイビング……。特に冬山に積もったパウダースノーの上を滑るパウダースキーには、本格的に取り組んでいる。日本代表レベルの仲間としばしば出かける。雪崩などのリスクがあるが、爽快感がたまらないそうだ。

夢は何だろうか。「事業を軌道に乗せ、会社を安定させることに取り組んでいきたいですね。そして従業員の皆さんも、充実した幸せな人生を送って欲しいと思っています。余暇の時間が充分取れるような労働環境を作っていきたいですね。」

▲設計事務所から出されたイメージ画

▲前田さんのアドバイスが反映され、出来上がったライブラリールーム。イメージ画からはライトの形、書棚の色、テーブルの色等が、部屋全体に調和するよう変更されている。

第 38 回全国建具展示会（佐賀大会）
国土交通大臣賞受賞

趣味のパウダースキーはかなりの腕前
険しい雪山も華麗に滑り降りる

※大川商工会議所も事業拡大に役立つ『経営革新計画』のサポートを行っています。関心ある方は遠慮なくご相談ください。